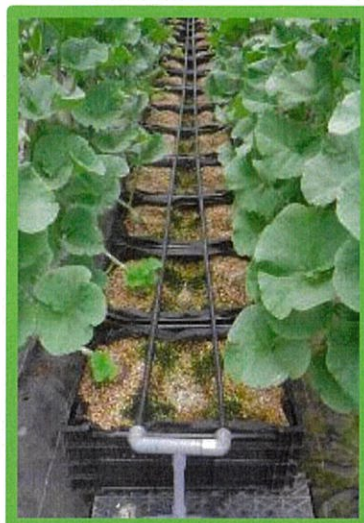


養液土耕(隔離)栽培システム

「**土壌障害対策**」「**大幅な省力化**」を



<メロン>



<トマト>

図れます！！

●養液土耕栽培とは？

作物の生育状況にあわせて、水分・養分を必要なだけ、かん水・施肥する栽培方法です！

●メリットは！？

- ①自動かん水・施肥により、省力化と生育の均一化がはかれる！
- ②隔離栽培により土壌病害を回避できる！畝立ても不要！
- ③8系統分の液肥制御ができ、液肥量・倍率は時間および系統独立で設定可能！（※OAT社製の場合）など。

▲デメリットは！？

- ①初期投資・ランニングコストが発生する。
- ②水稲育苗ハウスを活用する場合、コンテナの設置・撤去等の労力がかかる。 など。



●どんな品目が栽培できるの？

県内では、トマト、きゅうり、なす、ピーマン、レタス、パセリ、わさび、メロン、いちご、いちじく、ぶどう、ユリ等の栽培事例がある！基本、どんな品目でも作付けOK！



●初年度費用はどのくらい？

以下条件での、初期導入費参考事例。

- ・栽培面積：約 150 坪(間口 6.3m×奥行き 78.6m 1 棟)
- ・栽培用コンテナ：565 個(189 個×2、187 個×1 列)

項目	概算費用(税込)
パイプビニールハウス	既存施設利用
養液土耕栽培システム (TT750を購入した場合)	583,000円
養液土耕専用培土※	504,000円
原液・原水タンク、点滴チューブ等	174,000円
栽培用コンテナ(中古)	94,000円
配管部材・工事一式	198,000円
初年度費用	1,533,000円

TT750 ※OAT 社製



環境制御も可能！！

温度

EC

CO2

湿度

土壌水分

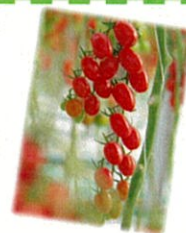
※電気(電源)ならびに水道引込工事が必要な場合、施主負担となります。

※種苗費、電気代、防除費用等、状況に応じた経費が必要となります。

※養液専用培土は、使用開始から5年以上経過後に更新を推奨いたします。

※上記事項は参考であり、面積・規模等により、機器構成・費用が異なります。

おわりに… J A 全農にいがたではH23年度以降、養液システムの普及拡大に取り組んでおり、県内で約200台が導入されています。養液システムに少しでも興味のある方は、まずはお近くのJ Aまでご相談ください！！



(園芸部 園芸振興課)

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。